

事例25

< 事例概要 >

迷入

- ① 50 歳代、中等度精神遅滞、腸閉塞と肺炎を繰り返していた患者。
- ② カテーテル感染疑いのため、中心静脈カテーテルを入れ替え予定。
- ③ BMI 16.7 kg/m²。血小板7 万台/μL。抗血栓薬の使用は無。
- ④ 左鎖骨下静脈に留置していたカテーテルに沿って新しい外筒を挿入し、カテーテルを抜去。新しいカテーテルを挿入し、逆血を確認。X線で左内頸静脈にカテーテルの先端があると判断し、輸液開始。入れ替えから約9 時間後、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）60%台へ低下、意識レベル低下あり、左気胸を疑い他医療機関へ搬送。CT でカテーテルの胸腔内迷入を確認。胸腔ドレナージを施行したが、輸液開始から2 日後に死亡。
- ⑤ 死因は、中心静脈カテーテルの左胸腔内迷入による胸腔内大量輸液あるいは血胸による呼吸不全（疑い）。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。